

第160回定例会 報告レポート

■2014年10月2日(木) 15:00~18:00

■TOTO(株)24階会議室(東京都港区)

(本レポートの著作権は、メンテナンス研究会に帰属します。)

転記・引用等の際には、事務局にご一報下さい)

〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町685(株式会社アメニティ内)

TEL:045-372-1156 FAX:045-371-7717

代表メール:jimu@toiletmaintenance.org

公式HP:http://www.toiletmaintenance.org



今回の定例会は、「学校トイレのメンテナンス」について、メンテ研の関係者と参加者
とで自由討論をしました(趣旨は本文1を参照)。普段はあまりお越しにならない方たち
もお集まりいただき、学校トイレの問題について、熱心に議論しました。また後半は製品
紹介を聞きました。

□テーマ

「第2回学校トイレのメンテナンス」ー清掃は誰が?維持管理は?予算計画は?ー

進行:坂本菜子(日本トイレ協会メンテナンス研究会 代表)

■1、趣旨説明 ー今回のテーマ設定の背景と目的を語るー

日本トイレ協会メンテナンス研究会代表 坂本菜子氏

11月15日(土)に開催予定(当時)の「第30回全国トイレシンポジウム」(主催:日本トイレ協会ほか/東京都世田谷区にて)で、メインテーマに「学校のトイレ」を掲げることになりました。そして午後からの分科会において「学校のトイレとメンテナンス」を議論されることになり、メンテナンス研究会の代表である私(坂本菜子)がコーディネーターを努め、登壇者(パネラー)の4名のうち2名がメンテナンス研究会の会員(村上八千世氏・井上和男氏)が選ばれました。

学校のトイレ(主に公立の小中学校)は、ほかの公共トイレが改良されているのにも関わらず、4K(汚い・臭い・暗い・壊れている)を代表する旧態依然の問題だらけの状態です。これでは子供たちの健康管理に問題が生じ、学習環境が悪化するだけでなく、震災時などの非常時に避難所として人が集まった場合、さまざまな問題が引き起こされることが予想できます。私は17年前に東京都内、及び、東北から九州の18校の、学校のトイレを調査し当時は「5k、学校のトイレは子ども無視の象徴」と題した発表をしましたが、現在はどんな状態か?が気になるところです。

そこで今回の定例会は、そのシンポジウム本番の前に、メンテナンス研究会の関係者で内部討論をしたいと考えました。そこで前半に、メンテナンス研究会の中でも、特に新しい考えをもつ

てトイレ改革に取り組まれてきた方 3 名より、参考事例を紹介していただき、後半から会場の参加者を交え、意見交換したいと思います。なお会場には、全国トイレシンポジウムの実行委員長であり、トイレの設計に数多く携わっておられる設計事務所ゴンドラの小林純子さんもお越しです。また学校トイレの特殊清掃などを行ってきた熟練の作業員もお越しになっています。どうぞ、よろしくお願いします。

■ 2、話題提供（1）駅におけるトイレ障害事象等について

ジェイアール東日本ビルテック株式会社大宮支店 富所敏明氏

私の勤務する会社は、主に JR の構内にある建物や設備の維持管理をしております。JR は 1987（昭和 62）年の民営化（国鉄→JR に移行）したことがきっかけで、トイレをはじめとする様々な設備が改善された歴史があります。その技術が学校トイレの話に直接お役に立つかわかりませんが、少し紹介します。



トップバッターは JR の設備管理に詳しい富所敏明さん。事故から学ぶ大事さを伺いました。

まず弊社は、青森から熱海・長野にいたる JR 東日本の事業エリアにある駅に関する設備（例：駅舎の建物、給排水やホーム内の電光掲示板、電話、時計、放送設備、駅ビルなどの商業施設など）の維持管理を行っています。その業域は幅広いのが特徴です。

その中で私たちは、日々起こった事故やトラブルをデータとして大切に管理しており、トイレもその中に含まれます。例えば多機能トイレにある手すりが外れたとか、ドアカバーが落下してお客さまに負傷させてしまったとか、洗面器が脱落したり、便座にひび割れがあった…という具合です。

これらは、老朽化やメーカー側の製造上の問題が起因になることもありますが、鉄道建築物ならではの原因も含まれます。例えば電車が通るたびにガタンゴトン…と天井や床が揺れますので、振動で留め金からフックが外れて、備品が落下するとか、早朝から深夜に渡る営業のため、大型のメンテナンスは深夜に作業することが多い…などによるものです。しかし軽視できないのは、人的要因です。例えば点検の際や備品を着脱する際に、作業員がねじをきちんと締めなかったり、部品が不足していたことを忘れてしまって放置してしまったり…などです。つまり「簡単な事こそ、丁寧に行わないと、大事故につながる」…ということです。

私たちは、これらの事例やその対応策を隠すのではなく、敢えて公開し顕著に学ぶため、「FM 道場」という研修施設を埼玉県内に創設しました（編集部注：こちらの施設の詳細は、2015 年 2～3 月ごろに発行予定の定例会レポートで見学報告をする予定です）。今では弊社の社員研修に活用することに留まらず、たくさんの業種からの見学者があります。事故から学び、二度と同じ事故を起こさないように、業界内外に広め、努めてまいりたいと思うからです。

なお最後に、平成 21 年 3 月に王子駅で排水事故が発生した事例を話します（編集部注：動画

とイラストで説明をしていただきました)。これはトイレから出る汚水が近くに川に直接流れてしまったことに長年気が付かずにいた…という事故です(現在は対応済)。これらを猛省しつつ、未来に生かしております。

振り返って、今まで建築物は、建てるどころまでは意識も高く、経費も莫大にかけるのですが、維持管理については考えが浅く、仕方なく後追いで対応してきた…というのが実情です。でもメンテナンスは本当に大事です。今後は短絡的な視点から長期的視点に立ち、襟を正してまいりたいと思います。学校においては、費用不足や清掃技術の欠如など、課題は多いかと思いますが、JRの経験がお役に立てば幸いです。

■ 3、話題提供 (2) 高速道路のトイレを管理する立場から感じるトイレ掃除の心

NEXCO 中日本ハイウェイメンテナンス中央株式会社 北野秀記氏

私は、高速道路のサービスエリア (SA) やパーキングエリア (PA) のトイレ掃除を含めた維持管理業務を行っている職員です。高速道路は平成 17 年に民営化して以来、トイレの改善に取り組んできました。そして同時に、それまで「やっていけばいい」という程度だった清掃に対して、より真剣に取り組むようになりました。



二人目は北野秀記さん。つい技術の話ばかりで忘れがちになる「心」の大切さを思い出させて下さいました。

私たちの取り組みとして代表的なのは、①

「KSN 活動 (=キレイ・清潔・臭わないトイレを目指す取り組み)」と、その実現のための具

体的な教育システムの 1 つとして、②「分かりやすいマニュアル」を清掃スタッフに提供する…です〔編集部注：詳細は第 152 回定例会／2013 年 4 月 22 日で講演をしていただきました。興味のある方はそちらのレポートをご覧ください〕。今回はその取り組みの中で学んだことと、私が「学校とトイレ」というフレーズから思い浮かぶことを、少し触れてみようと思います。

まず私が「学校とトイレ」と聞くと、最初に頭に浮かぶのは「日本を美しくする会」の鍵山秀三郎先生 (=カー用品店の「イエローハット」の創業者) の存在です。この会が発行している DVD や書籍を読むと、鍵山氏がトイレ掃除を通じて自己を磨き、社員を育て、ビジネスを成長させてきた「心」を知ることができます。その一例を紹介すると、次の 5 つのキーワードが大変印象的です。

それは「トイレ掃除をすると、①謙虚な人になれる、②気付く人になれる、③感動の心を育む、④感謝の心が芽生える、⑤心を磨くことができる」ことです。特に特記すべきことは、この「日本を美しくする会」が活動する時は、小学校のトイレを使用して活動を行っている点です。つまり学校のトイレは数がたくさんありますし、汚れもひどく、また子供たちや PTA にも参加してもらえるので、好都合なのです。ひとりが 1 つの便器を割り当てられ、1 時間ちかくかけて磨く…

というものです（もちろん、便器以外の床や天井や壁も、一生懸命に掃除します）。そしてそれを実施した学校ではその後、子供たちがトイレをキレイに使うようになり、親や教師もトイレ掃除に対する偏見が減るそうです。

具体的なことは関係書籍をぜひ手にしていただければと思いますが、私はトイレ掃除には人を変える力があると感じます。だからそういうエネルギーをもっと学校のトイレの維持管理に持ち込むことは、できないのか？と願うのです。

今、学校のトイレは随分綺麗になったと思っておりましたが、まだまだなのだと、学校トイレ研究の第一人者の村上八千世さんがおっしゃっておいりました。が、費用が無いことを言い訳にするのは、NEXCOも同じでした。でも今は維持管理の大切さが見直されました。また現場の工夫も大事です。費用の面は国家レベルで取り組むべき重たい課題ですので、時間がかかると思います。ですが、姑息な維持管理は一見節約しているように見えるけど、実は将来過剰な出費となることばかりです。

現場で実際にトイレを使っている子供たちがもっと清掃に興味をもつように、技術を磨かせる機会を設けてはどうでしょうか？また清掃を業者が行っているなら、そういう大人たちにもぜひ一緒に改善のために意識改革をしてもえるようにしたいものです。

■4、話題提供（3）トイレリフレッシュのご提案

株式会社レッツクリエイト代表取締役 井上和男氏

私はトイレ専門の清掃事業を営んでおります。私の場合は、いわゆる毎日の清掃をしているのではなく、エデルスティンコーティングという技法を使い、トイレの床や便器が汚れにくくなる特殊な施工を提案しております。私のお客様の中に最近特に多いのが、学校施設です。業者の立場でどこまで話しして良いのか分かりませんが、私たちが現場で見てきたことや、その経験が、学校トイレのメンテナンスの改善に繋がれば幸いです。

まず私たちの技術ですが、トイレの床や便器に特殊なコーティング材を塗布することにより、汚れが付くにくくなるという具合です。よって子供達の不慣れな清掃や、清掃技術が乏しい方の清掃でも、水を流すだけでいいので、汚れが固着しにくくなる…という具合です。私たちの作業は、まず長年の汚れを取ることが8割です。実はこの「汚れを取る」ということが、案外簡単そうでとても難しいです。



3 番目は井上和男さん。実際に学校のトイレ現場で苦労している現状を分かりやすく教えてくださいました。

学校のトイレは本当に汚いです。なぜなら、学校建築の多くは昭和30～40年代に全国的に作られ、建築してから30～40年が経過しているのに、清掃方法は水を撒くだけとか、洗剤の使い方を誤っているなど、時代遅れの対処しかしておらず、素人ではもう手に負えないからです。具体的には臭いはひどく、故障や破損もそのまま、清掃の方たちもたくさんある校舎内のトイレをさっと水を撒く程度で、しかも週1～2回しか清掃しないので、キレイになるはずがありません。私たちの場合、およそ1～2日で30数年分の汚れを一気に除去してしまうので、現場の方には本当に目を丸くして驚きます。キレイになれば、掃除もやりがいがあるし、丁寧に使ってくれるのです。

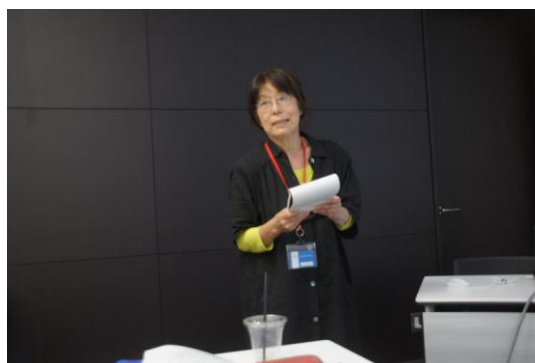
私たちは、実際に仕事をするとなると学校関係者やPTAからご連絡を頂戴するわけですが、費用の問題などは、確かに大変です。しかし臭いトイレの真横で子供たちが勉強したり、給食を食べているのは、本当にかわいそうです。本来なら、教育委員会の人たちがもっとこの劣悪な状況に目を向けて下さると良いのですが、学校サイドが何度も何度も改善要求を出しても、なかなか応じてもらえないそうです。だから現実には、意識改革にまだまだ時間がかかるかもしれません。

私たちの技法は高額な費用を必要とする…という印象を与えがちですが、長い目でみるとそうでもないことは、実物を見せると納得していただけます。まだ時間がかかるかもしれませんが、学校建築にふさわしいトイレの維持管理について、もっと国・自治体・教育委員会・学校・PTA・清掃業者と一緒に考えるべきだと思いますし、私も尽力を惜しみません。何かお役に立てれば幸いです。

■5、小林純子実行委員長の意見と感想等…

第30回全国トイレシンポジウム実行委員長 小林純子氏

私はトイレの建築を長い間手掛けておりますが施設間で見ると商業施設のトイレのレベルアップが先行し、徹底化しており、日本のトイレが世界一と言われるのはこのおかげではないかと思えます。その一方、子供たちが育つ学校は改修が遅れ、その格差から子供たちが戸惑い、いじめの温床になったり、健康被害に影響が出るなど、根深い問題が存在しております。しかし一口に改良すべきといっても、改修規模が大きく未知数です。例えば私が15年以上関わっている東京都世田谷区（編集部注：今回の全国トイレシンポジウムは世田谷区で開催）では、1998年当時96校の公立小中学校があり、各フロアには2から3のトイレの排水系統がありますが、その系統数でいえば世田谷区全体では256系統数となっています。改修は、1年間に約5～6系統しかできないため、単純に言えば、全部の系統数を改修するためには、つまり50年間もかかる計算になります。つまり、一旦つくるとなかなか改修できないとい



シンポジウム実行委員長の小林純子氏。なかなか改善が進まない学校トイレの現状を鋭く指摘してくれました。

うことになります。また、耐震化の工事が最優先であったため、関係者はトイレ改善の大切さは理解されているもののなかなか進みませんでした。

トイレの改善は、快適さをつくる企画や設計と、それを快適に維持するメンテナンスの両輪が必要です。文部科学省はこれから、建築の「長寿命化」を掲げているおり、トイレ改善に一層の関心を持ってくるとわれ設計上の情報は進化していくものと思われます。しかし、維持管理では、その意味の重要さの認識や制度化等、課題はやまずみで、どこに働きかけたらいいのかを探るとともに、メンテ研をはじめとして、現場からの発言と働きかけが重要になると思います。

■6、学校トイレ研究のメンテナンス事情に詳しい村上八千世さんより…

アクトウェア研究所 村上八千世氏

私は学校トイレのメンテナンスについてウェブサイトにて情報発信しています。その内容は前回の定例会（第159回）でお話させていただきました。今回はコメンテーターとしてお招きいただき、ありがとうございます。

私はたくさんの学校トイレを見ておりますが、ちょっとした情報やアイデアがあれば、解決できるのに…と歯がゆく思う現場も多くお見受けします。要はメンテナンスの大切さをもっと知ってほしいし、メンテナンスさえ良くするだけで変わることもあると思うのです。しかしとにかく予算が無いのです。さらに現場の子供たちや職員は、改善要求をしようにもこの問題を扱う部署が無いのです。またメンテナンスの仕様基準が無いのも大きな問題で、議論が少しも進まないのが原因であると感じます。



長年、学校トイレの問題点を手掛けている、坂本菜子代表と村上八千世さん。つい声が大きくなるほど、議論に熱が入ります。

■7、会場との意見交換より…

ここでは、会場から出た質問や意見を、箇条書きにします。

- ・問題はとにかく学校建築の数が多いことと、それによる予算が少なすぎることだ。
 - ・維持管理にお金がかかるという意識が薄く、故障をしてもそのままの現場が多い
 - ・学校トイレの場合、清掃を誰がするか？が学校ごとに違う上、「任せっぱなし」だ。
 - ・「仕様書」の内容も曖昧で、ルールも無く、作業確認も無いから、放置に近い。
- だから安い入札業者に決まってしまうので、いいメンテナンスを提供できる限界がある。
- ・だから仕様書の基準を設けることだ。
 - ・指導や監査ができる「第三者機関」が必要だ。

- ・せっかく意識の高い教職員やPTAがいても、異動や卒業でいなくなってしまう。もっとノウハウを継続する方法は無いのだろうか？
- ・PTAや子供や教師を巻き込んだトイレ掃除講習会や指導を相当やったが、やはりその人が卒業してしまうと、元に戻ってしまう。意識改革には時間がかかるが、人次第の部分もある。
- ・1980年代までは、どこもトイレが汚かった。だけど、こんなに変わったではないか。その他業種のノウハウを生かせないか？
- ・「費用さえあれば…」と言うが、現実には清掃する人の高齢化も無視できない。教育や雇用体制も同時に考えなければならない。

…この他、多数の意見や質問が出ました。

■ 8、参考意見：公立高校のトイレ事情…

メンテナンス研究会の会員で、公立高校の技能主任である市川耕司さんより、公立高校のトイレの実態を特別にレポートにして、送っていただきました。ここでは要点のみ抜粋します。

[公立高校の様子]

- ・高校も小中学校と同レベルである。意識も予算も低い。
- ・和風便器が主流で、洋風便器が各トイレに1つずつ出来たという程度。
- ・高校の場合には、子供たちの体格も大きくなり、子供によるいたずらや破損が多い
- ・文化祭や学校説明会の前だけ、前日に熱心に掃除をするが、それ以外は週1回程度。
- ・清掃は清掃業者が行うが、高齢の方が多く、清掃技術が高いとは言い難い。
- ・私立はやはりキレイで、最新の設備を入れているところもある。
- ・トイレのキレイか汚いか？の有無が、生徒集め（受験）にも影響をする。
- ・失礼ながら、高校の偏差値と、親の質と、トイレの状態は、比例するようだ。…等

■ 9、製品紹介：「消臭効果のある壁の漆喰塗料のトイレ使用の可能性」

関西ペイント販売株式会社 齊加正史氏

今回は、消臭効果のある壁の漆喰塗料の壁材「アイレスシックイ」について、ご紹介いただきました。

これまで、便器や床やパーテーションの研究や製品はありましたが、壁は案外話題に出ることがなかったので、新鮮でした。

また日本独自の伝統素材である漆喰をこのように活かすのは、画期的なことです。

ご興味のある方は、ネットでも商品説明をご覧頂けるので、ご覧下さい。



製品紹介：消臭効果のある壁材

■10、感想

今回の定例会は、みんなで議論をした、久しぶりに「メンテ研らしい」一日となりました。みんなで疑問を出し合い、それをみんなで意見を言い合い、考える…というメンテ研の伝統を思い出したからです。ただし内容的には問題が根深く、メンテ研の得意な「汚れを取るレベル」の話を大きく逸脱している…という印象です。でも逆を言えば私たちが問題提起をしなければ、永遠に放置されてしまうのかもしれない。時間がかかるかもしれませんが、出来ることをしていきたいものです。



会場には、建築関係者や清掃従事者など、他業種の方が集まっており、この問題の奥深さを感じました。

なお、事後報告となりますが、11月15日の本番（＝全国トイレシンポジウム）では、さらに一般参加者も加わり、議論が進められました。具体的な改善策や大きな進展は無く、時間も不足気味でしたが、会場からの発言が活発にありました。残念なことにもう一方の分科会（学校トイレの現状と課題）の方が参加者が多かったように思いますが、参加者から「自分もできることがあったら協力したい」と名乗り出てくれる方が誕生し、仲間が増えて嬉しく思いました。引き続き議論をしていきたいと思えます。（著：白倉正子〈アントイレプランナー代表〉）

日本トイレ協会メンテナンス研究会では常時、会員を募集しております。

会員になられると、定例会のお知らせや、報告レポートの送付等を受けられます。

□■日本トイレ協会メンテナンス研究会 入会概要■□

会員種別…法人会員〔年間費 30000 円〕

個人会員〔年間費 10000 円〕

○入会金は無し。

○後期以降（11月1日～3月31日）は半額。

希望者には所定の書類をお送りします。事務局にご一報ください。

◆事務局：〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町 685 (株)アメニティ内 (担当：内田)

TEL 045-372-1156 / FAX 371-7717

Mail：jimu@toiletmaintenance.org (担当：白倉)

ホームページ：<http://www.toiletmaintenance.org>

◆代表：坂本菜子 / 設立…1992年